

令和4年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	R4 到達	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
安心安全な学校	生徒一人ひとりにとって安心して学ぶことができる人的、物的環境を整える。	「学校生活を楽しんでいる」と答える生徒95%以上	92%	B	<p>昨年度の到達度よりも若干、数値が伸びているものの、目標の95%までは届かなかった。引き続き、否定的な回答を示した生徒への支援を図っていきたい。</p> <p>コロナ禍にありながらも、今年度は予定していた学校行事のすべてを計画通りに実施することができ、学校生活を比較的円滑に送ることができた分、子どもたちの笑顔が多く見られるようになった。しかし、本人や家族が感染したことにより一定期間登校できない生徒は後を絶たず、精神的には不安定になりがちな生徒も見られた。引き続き個々の生徒への支援を図っていききたい。</p>	<p>・息の通った内容、感性の豊かさを感じる学校便りを毎回楽しみに読ませていただきながら、ホッとしております。校長先生のお話が生徒さんたちの心にきくと響いていると思います。こういう時代だからこそ、先生方と生徒たちと保護者の心の交流を内容あふれる学校便りを通して図っていただきたいと思います。</p> <p>・全職員が生徒・保護者の気持ちに寄り添いながら、前向きに学校運営に取り組んでいる様子がありました。</p> <p>・学校生活を楽しく過ごしている生徒が多く、うれしく思います。先生方がよりよい環境を整えてくださっているからだと思います。</p>
		「先生は、あなたのことを理解してくれていますか」と答える生徒90%以上	91%	A	<p>令和元年度より年々数値が上昇してきている。ステージ制を導入以降、定期的なアンケートの実施により、生徒の悩みを迅速に把握し、生徒指導主事を中心に即座に対応できる体制が整ってきた成果であると考えます。また、養護教諭やSC、SSWなどの協力を得て、チームとして生徒の悩みに寄り添い、問題の解決に向かう連携が図れる体制を今後も維持していききたい。</p>	<p>・コロナ禍の3年間の影響はいろいろな面で今後何年かにわたって出てくると思われるので、じっくり見守り、正しく分析しながら、個々に即した対応をしていく姿勢を、社会・学校・家庭が連携して持続していかなければならない重要な課題だと思います。竜洋中の先生方の一人一人の生徒について、相互に見守り、理解し対応していこうという姿勢に希望を感じました。</p>
		「悩み事を相談できる先生や友達がいいますか」と答える生徒95%以上	89%	B	<p>目標には到達できなかったが、比較的高い数字を維持している。しかし、悩みを相談できる先生や友達がいないと回答した約10%の生徒が、少しでも支援要請しやすい環境を整えるとともに、生徒同士の豊かな人間関係づくりや教師との信頼関係の構築がより図れるよう、努めていききたい。</p>	<p>・「先生が生徒を理解していますか？」のアンケート項目については生徒よりも保護者の評価が低いことにも目を向けてほしいと思います。</p> <p>・悩み事相談できる先生や友達がいるから学校生活が楽しくなると思うので、いろいろな人と交流ができる機会を増やして、新たな人間関係を作れるようにしてほしいと思います。また、表に表れない問題もあると思うので、ちょっとした変化を見逃さないでいってもらえたらと思います。</p>
確かな学力の育成	授業改善を常に意識し、生徒が活動しやすい授業構想を練り、生徒にとって「わかる授業」を実践する。	「授業がわかる」と答える生徒90%以上	88%	B	<p>ICTを活用した授業も定着し、校内研修をはじめ、多くの職員が授業改善に取り組んでいる。その結果、目標には少し届かなかったが、年々少しずつ数値の上昇が見られる。しかし、個々を見ると基礎学力の定着が不十分の生徒も少なくないため、今後もさらに授業改善を推進していききたい。</p>	<p>・一人一台パソコンがあるので、せっかくですので大いに活用していただきたいです。</p> <p>・各教科部会での話し合いが充実していると感じました。</p>
	授業の方法を改善し、自分で調べたり、仲間とともに考えたりするなどの活動を取り入れる。	「進んで先生に聞いたり自分で調べたりして学習している」と答える生徒80%以上	74%	C	<p>昨年度の到達度より多少上昇傾向はあるものの、依然として目標値に対して、低い到達度である。一人一台端末の整備により、自分で調べる学習環境は整ったものの、主体的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせるまでには至っていない。「主体的・対話的で深い学び」の実践に向け、校内研修を中心に推進していく必要がある。</p>	

令和4年度 磐田市立竜洋中学校 学校評価書

A:十分満足 B:おおむね満足 C:もう少し努力すべき D:大いに努力が必要

重点	目標・取組	評価指標	R4 到達	自己 評価	考察	学校関係者評価委員から
主体的 に考え、 ともに学 び、実行 する生 徒の育 成	学校行事や委員会活動、部活動など、生徒が主体的に取り組むと共に、個を育て一人一人の向上につなげる。	「生徒会や学級の係活動・部活動に積極的に取り組んでいますか」と答える生徒 90%以上	90%	A	生徒会活動や委員会活動、学級における係活動など自分の役割に積極的に取り組んでいる生徒が多い。また、生徒会においても、コロナ禍の制限が緩和され、地域での広報活動等にも参加できるようになり、今後も生徒主体の活動を校内だけでなく、校外へと発信できるよう支援していきたい。	・生徒会行事・学校行事・部活動など、生徒一人一人が前向きに取り組んでいる姿が浮かんできました。 ・どの子どもみんな何らかの形で委員などの仕事が経験でき、責任と達成感を味わえるよう工夫していただきたいと思います。生徒会がもう少しすべての生徒にとって身近なものになっていったらさらにいいと思います。 ・生徒会活動はとても活発に活動していて感心します。学校生活の中で誰かのために役立つことを学べる環境はとてもいいことだと思います。
		「互いにルールを守り、協力する雰囲気がある」と答える生徒95%以上	91%	A	昨年度に引き続き高い数値で安定している。コロナ禍でありながらも感染予防を心掛けながら、すべての行事を予定通り実施できたことに加え、その過程の中で学級自治力を高めることができています。今後も、一人一人の生徒が主体的に学級づくりに関わり、温かな人間関係の中で切磋琢磨できる集団づくりを推進していきたい。	
小中一貫教育の推進	地球の様々な課題を自分ごととしてとらえ、足下から行動するとともに、周りの人々とのプラスの関わり合いを持つことで、自己存在感、自己有用感を高める。	「大交流を通して、学府の小学生と関わることのよさを感じることができた」と答える生徒80%	93%	A	今年度は3年ぶりに大交流会を実施することができた。竜洋海洋公園の広大な敷地で、はじけるような笑顔を見せながら、伸び伸びと交流活動を楽しむ姿が多く見られた。到達度は昨年度の90%という高い数値をさらに上回り、93%であったが、その中でも「かなりそう思う」の最上位回答を示す割合が6割を超えていた。人との関わりを楽しむことができる生徒の育成に大きく寄与した活動になった。来年度も継続していきたい。	・今年度は竜洋海洋公園で小中学生がいっぱいの笑顔で伸び伸びと楽しんでいる姿を見ることができました。この交流活動は継続していただきたいと思います。 ・他にも学府でできることがあれば、やっていきたい。 ・久しぶりの大交流会はたくさんの子どもの笑顔を見ることができてうれしかったです。すてきな交流会だと思うので、来年以降は続けていただきたいと思います。お手伝いします。

学校関係者評価を受けてのまとめ

・今年度は、全体的には到達度の数値が下がっている項目が1つもなく、ほとんどの項目においてここ数年、高い水準で推移している。「安心・安全な学校づくり」では、コロナ禍にありながらも、どの行事も感染予防対策を徹底しながら、予定通り行うことができたことや、定期的なアンケートの実施により、早い段階で生徒の悩みを察知し、心に寄り添った支援ができたことが結果に結びついていると考えられる。しかし、学校生活を心から楽しめていない生徒や相談できる友達があまりいないと感じている生徒に対する支援の在り方を今後も考えていきたい。

・一人一台端末の整備により、ICTを活用した授業実践が日常に浸透し、校内研修等を中心として、授業改善に取り組んできた。その成果もあり、「確かな学力の育成」の項目においても、年々、少しずつ到達度の数値が上昇しているものの、主体的に学習に取り組む生徒の育成という視点では、目標値まで届かず、まだまだ課題意識が残る結果であった。今後も引き続き、単元構成を工夫し、生徒が主体的・探究的に学ぶために、学習の中に対話・表現・振り返りを意図的に設定したり、それらが充実するための支援を充実させたりすることで、生徒が学びの良さや成長を実感できる授業づくりを行ってきたい。

・「小中一貫教育の推進」については、目標値を大きく上回る結果となった。今年度は、コロナ禍でここ数年できなかった大交流会を3年ぶりに実施することができ、計画段階から時間をかけて計画を練り上げ、当日は90名以上の保護者・地域の方々にもボランティアとしてご参加いただいた。コミュニティ・スクール推進の意味でも、今後もよりよい学府の行事となるよう、改善を重ね、子どもたちにとっても地域にとっても意味のある活動にしていきたい。